

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームふきのとう 本館第2	評価実施年月日	平成20年9月25日
評価実施構成員氏名	管理者・計画作成者 川口礼子 ユニットパートナー 野坂純子 介護支援専門員 遠藤珠江 養田敦子 加藤憲亮		
記録者氏名	遠藤 珠江	記録年月日	平成20年9月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ふきのとうのケア理念である「家庭の環境の中で～ゆっくりと楽しく一緒にをモットーに行動障害になっても、当たり前のように生活を送れるように処遇致します。」とユニットへ掲げ、ミーティング等でも確認している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の採用時には理念を伝え、理解して頂くようによりオリエンテーションを行っている。また、ユニットのミーティングでも、理念に触れながら確認し合うように努めている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1度、家族の方や地域の方に出席して頂き、運営推進会議を行っている。その中で、「ふきのとう」の取り組みを説明し理解して頂くように努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に公園へ散歩へ出掛ける際に、近所の方とお会いすると挨拶を交わしたり、子供達が遊んでいると声を掛けながら会話の機会も作るように対応している。夏祭りの案内も直接近所の方へ渡し参加して頂いている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	中学校の文化祭や地域で行われている「歌の会」などにも参加し、冬には敷地内を提供し中学生が雪明かりの雪像等を作る事にも協力している。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	2ヶ月事に行う運営推進会議にて、「認知症について」「高齢者のかかりやすい病気(脱水など)」などを説明し、家庭での生活に役にたって頂けるように努めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティング時に自己評価について話し合い、日頃のケアを改めて確認しサービスの向上に努めている。結果については、ミーティング時に報告し改善に向けて取り組んでいる。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を行っている、日頃のユニットの取り組みや事故等の報告も行っている。内容によって、委員の方から頂いたご意見等もユニットへ伝えている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム協議会の研修や市役所等の主催の研修にも参加しケアの向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、第2ユニットでは、キーパソンの方が皆さん揃っている為、今すぐの後見制度を利用する方はいないと思われるが、ケアマネージャー・管理者は、権利擁護に関する研修には参加している。ユニットの勉強会として、研修内は職員へも伝える機会を作っている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	ユニットの勉強会やミーティング等を行いながら、高齢者の虐待防止に関する理解を浸透するように努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族へは時間を掛けて丁寧に説明している。高齢に伴い起こりうるリスクや重度化になり看取りについての対応や、医療連携体制についても詳しく説明し同意を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等からの苦情や近隣住民からの苦情も、真摯に受け止め迅速に対処している。また、苦情内容も職員が把握出来るように書面に記載し回覧しケアの向上を図るよう努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、領収書を家族へ送付する際に、医療費等の明細も詳しく添付している。また、入居者の状況も「ふきのとう通信」を通し報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情の窓口を設置している。苦情等があった場合は、内容を真摯に受け止め迅速に苦情等の処理を行っている。内容については、記録し職員全体が把握出来るように回覧している。運営推進会議でも報告している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングを通し、職員からの意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に合わせ、起床時間や就寝時間や食事の時間等も柔軟に対応するように職員は努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者の家族への信頼関係を築く為職員の移動は、殆どないが女性職員の産休等の場合は、欠員が発生する為職員を補充して対応しているが、引き継ぎ等の面では、最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の新人研修・3ヶ月目の研修等をユニットで行っている。また、グループホーム協議会の研修にも参加している。参加出来なかった職員へは、参加した職員よりミーティング時などに報告している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>小樽グループホーム連絡協議会を通じ、研修に参加して質の向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ユニット内で親睦会を行うなど職員同士のコミュニケーションを図るように努めている。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行っている。勤務年数に合わせた研修にも参加する機会も作っている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居の希望があった場合は、必ず本人と会って心身の状態や本人の思い等を把握している。また家族の不安等も伺いながら、不安が解消出来るように問題を一つ一つ解消出来るように努めている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>今までの家族の方の苦労等を伺いながら、話を聞くことで安心して頂きながら、次の段階の問題に取り組んでいくように努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に、本人の思いや家族の思いなどを伺いながら、状況を把握し、改善に向けた支援を提案しながら、信頼関係も築きながら取り組んでいくように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限り、本人や家族の方にグループホームを見学して頂きながら、安心出来る環境である事を理解して頂けるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思いや不安や楽しみを把握し、日々の暮らしの中で共に支え合い信頼関係を築くように努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の様子を「ふきのとう通信」等で報告しながら、きめ細かく家族へ伝える事で共に入居者を支えていく協力関係が築ける事が多くなっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の様子を詳しく報告する共に、「ふきのとう通信」や電話などで信頼関係が途切れないように留意している。家族の来訪時は、入居者と家族の潤滑油になるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族へは毎月、直接入居費等を支払いに来て頂くようにし、入居者との面会の機会に繋がるように支援している。		家族も高齢化で、来訪される事がここ数年全くない方もいる。このような家族との関わりについては、常に職員と検討を繰り返している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日の食事やおやつの中には、職員も一緒に会話を持つように努めている。毎日のお手伝いやレクリエーションを通し、入居者同士の関係も円滑に図れるように対応している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去され契約が終了した家族とは、連絡等を取る機会は殆どないが、「お近くにいらした場合は、いつでもお寄り下さい。」と退去の際は、お伝えしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の身体状況によっては、どこで過ごした方が最良なのか？と家族や主治医と検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や知人が来訪された場合は、昔の様子など生活状況など伺いながら、家事が得意な方には、プランに反映するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	食事の時間等は、本人のペースに合わせ対応している。身体状況も個々の為常に状況を見ながらの対応としている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者や家族から思いや意見を伺いながら、日々の生活に反映出来るように職員とアセスメントやモニタリングを行いながらカンファレンスしてプランを作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	前期・後期に分けて、年2回プランの見直しを行っている。本人の状況等に合わせ常に見直しを行っている。都度、家族や主治医へも説明し対応している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の状況の変化は、個人の記録に記載し、職員間の情報を共有している。個人記録をもとにプランの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ふきのとうでの行事については、家族へ案内を送り、参加を呼び掛けている。「夏まつり」には、入居者と一緒にゲームなどにも参加される事も多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議にて、ボランティアの協力を呼び掛けている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の状況に応じて、訪問美容を利用し対応している。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの方が参加されるようになり、情報交換や協力関係を築いている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人・家族の希望を伺い、在宅時からのかかりつけ医を替えず対応している場合も多い。主治医には、日頃の様子を報告し、特変時には指示を常に仰ぐように対応している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>市内でも長年に渡り、認知症の方を診ている医師に、隔週にて診て頂いている。常に入居者の対応等を相談し指示を仰いでいる。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>主治医と同じく、かかりつけ医の看護師へは、入居者の体調管理を含め相談している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院から直ぐに、主治医とは、今後の対応について話し合い、長期入院にならないように早い段階から、退院に向けてグループホーム側も準備している。家族とも情報を交換しながら回復状況を見て早期の退院に結びつくように努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成し、家族へ説明をする機会を作っている。状況に応じて、主治医からも意見を伺い家族とも検討する機会を作っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を伺い、主治医・グループホームが連携を取りながら、安心して最期を迎える事が出来るように、ケアの内容を家族へ伝え随時、家族の意向を確認して取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の施設等へ移られる場合は、これまでの生活状況や支援内容や注意点などを先方へ情報として伝えて、きめ細かい連携として対応している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ミーティングや勉強会にて、入居者へのケアの内容を確認しながら、入居者のプライドやプライバシーを損ねないように対応している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>声掛けを行いながら、意思の疎通が困難な方には、表情を読み取るように努め、些細な事でも入居者が決められる状況を作っている。お菓子を選ぶなど。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の、入居者の様子を見ながら、その方のペースに合わせてあまり時間を区切らず柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>加齢に伴い、歩行が困難になった方が多く、直接美容院へ外出する事が困難になった方がいる為、定期的に訪問美容師に来て頂き対応している。美容師とは、顔なじみの関係が出来ているので、会話も弾む事もある。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の盛りつけなど、入居者の見える所で行っている為、「美味しそう」「早く食べたい」など会話も弾み、身体状況に合わせ、食事の内容もトロミ食や刻み食など個々の状態に合わせて対応している。食器ふきなど入居者にはお手伝いに参加して頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は1人1人の嗜好を理解し、本人の様子や時間を見ながら楽しんで頂けるように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、トイレ誘導しトイレでの排泄を促している。また、尿意の少ない方には水分量等も考慮しながら、時間等を見計らいながら誘導しトイレにて排泄して頂くように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来るだけ、本人のペースで入浴をして頂きたいが、入居者によっては、介助が必要で職員が2名で対応する事も多く、曜日を決めて対応する事もある。		夕方以降に入浴する事は殆どないが、入居者の状況によっては今後対応していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中・夜中と徘徊する方や、昼夜逆転傾向の方もいるが、本人のペースに合わせて休んで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌が好きな方や賑やかな事が好きな方が多くいるので、「歌の会」など行事に取り組んでいる。また、夏の間は、「潮音頭」など曲をかけてユニット内で踊り楽しく過ごしていた。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分の財布からお金を出す事で社会生活を維持するように支援している。2000円程度を本人が保管し、移動販売にて本人が菓子等を購入する事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や本人の希望に応じて、季節を感じて貰いながら、心身の活性化に繋がるように日常的に散歩や、散髪などに出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	散髪や、外食・水族館など、ユニットで対応出来る事を増やし、対応している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	地方にいる家族より、連絡が入る場合など、直接本人と話して頂けるように環境を整え対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時間は、特に定めておらず、家族の都合の良い時間に、来て頂けるように配慮し対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の勉強会を事業所の中で、実施し職員の意識向上に努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者が外出しそうな時は、止めるのではなく、さりげなく声を掛け職員が一緒についていく等安全面に配慮し自由な暮らしを支援するように努めている。		鍵を掛けないように取り組んでいくようにケアの見直し等含め検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は入居者と同じ空間で記録等の作業を行い、入居者の状況を把握し夜間は定期的に見回りしている。第2ユニットでは数段の階段がある為昇降等には転倒に注意し見守り・介助を行っている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>入居者の状況の変化に合わせ、保管管理が必要な物や、入居者が使用する際に注意が必要な物等に分けて管理している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の身体状況に合わせ、誤嚥の危険のある方には、トロミや食べやすく刻んだり工夫し対応している。状況に応じてヒヤリハットを記録しミーティング時などに随時報告し事故防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>内部研修や外部研修に参加している。事業所の独自のマニュアルを作成し、緊急時の対応等も職員は周知している。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>運営推進会議にて地域の方に協力をお願いしている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族へは、加齢により転倒等のリスクがあり、日々のケアに対し注意している事を随時説明している。安全面を優先するあまり、すぐに車椅子等の使用し、下肢筋力低下に繋がらないように出来る限り、手引き歩行等にて取り組んでいる。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日、健康管理として血圧・体温測定をしている。また、顔色や食事量等の変化に対しては、随時バイタルチェックし状況によっては主治医へ連絡し指示を仰いでいる。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋の原本はユニットに保管し、職員はいつでも確認する事が出来る。入居者個人の薬保管箱を作り、薬の整理・保管等を行っている。服用時は、職員は服用した事を必ず確認している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>乳製品や繊維質の多い食材を取り入れ献立を作成している。排便管理を行い毎日、便の状況を見ながら、処方されている下剤の量も調整している。主治医より、指示を受けている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>口腔ケアの重要性を、事業所内の研修等で職員は理解し、食後は1人1人の力に応じた歯磨きの手伝い・介助を行っている。就寝前は義歯を洗浄し夜間は保管している。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分量を毎日個人記録に記載し、職員は状況を把握している。食事の量が低下している方には、主治医に相談し、状況によっては、栄養補助食品も提供している。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>毎年、インフルエンザのワクチンを入居者・職員含め接種している。食品の取り扱い等も注意しグローブの着用など対応している。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>冷蔵庫の洗浄・消毒等を含め、管理を徹底している。職員は介助用と調理用のエプロン等も分けて対応している。食材を扱い際は、デスポサブルのグローブを使用し対応している。食品は日付等に注意して古い物は早急に処分している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	時間がかかっても、その方の出来る事をお手伝いとして毎日参加して頂いている。食器拭きや洗濯物畳みなど。状況によっては、職員と一緒に常に行い常に声掛けし対応している。		
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天候によっては、近くに公園があるので、車椅子の方も外の空気に触れる機会を作るなど対応している。敷地内には、ベンチも用意しているので、他のユニットの入居者とふれあう機会も作っている。		

サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない



項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <b>たまに</b> ほとんどない		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <b>少しずつ増えている</b> あまり増えていない 全くいない		
98	職員は、生き生きと働けている	<b>ほぼ全ての職員が</b> 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない		
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<b>ほぼ全ての利用者が</b> 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない		
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<b>ほぼ全ての家族等が</b> 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
日々、ケアの中で音楽をかけて、一緒に踊ったり、歌ったり楽しく過ごすように取り組んでいる。